

会報

栗峰

No.16

2021.7.30



栗原市（旧一迫町）長崎の水車は、国道398号線沿いにあり、現在も稼働中

目次

同窓会会長と校長の挨拶	2
各支部の近況（東京支部・仙台支部）	3
令和2年度に御勇退された前校長の挨拶	4
対古高定期戦	4
応援団長と生徒会長挨拶	5・6
令和元年度・令和2年度会計決算報告	6・7
各支部の近況（県庁築高同窓会）	7



宮城県築館高等学校同窓会

宮城県築館高等学校同窓会

会長 渡邊 一正 (高二十六回卒)

同窓生の皆さん、いかがお過ごしですか。コロナ禍の中で不自由を余儀なくされ、大変な思いをされていること案じております。一日も早く収束することを願っております。

さて、そんな状況の中で、母校の子ども達、先生方も、毎日葛藤しながら精一杯頑張っております。人生の青春時代で、一番素敵な素晴らしい時をコロナに立ち向かっていかなければならない環境をきちんと受け止め、自分の目指した夢に向かって、突き進んで欲しいと心から願っております。

我々同窓生は、故郷を考える時、どうしても、青春時代を過ごした築館高校を思い出します。築館高校の3年間は、古里を感じさせられるものがあります。また、我々同窓生の心は、歴史ある母校の発展を願っております。

これから何らかの一助になれば幸いです。今後とも、同窓生の皆さんの温かいご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍の中で



学校長 狩野 秀之 (高三十四回卒)

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に様々な形で、御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も何卒、母校で学ぶ、伸びゆく子供たちのために御支援をよろしく、お願いいたします。

さて、申し遅れましたが、この4月に築館高等学校に赴任いたしました狩野秀之と申します。生まれは栗原市、築館高校出身です。母校への赴任は、帰ってきた喜びとともに身の引きしまる思いであります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

母校は、共学になりましたが、遊び心を持った純朴な子供たちの魂は、間違いない、我々の後輩である。心から感じさせられる再会でありました。

コロナ禍も2年目に入りました。

本校も、4月始めにその影響を受ける一場面もありましたが、今の時代だからこそ、感染対策や、活動の制限をマイナスに捉えず、自然の中で生きていく「生き物」として、当たり前に対応としてしっかりと受け止め、その上で楽しく、充実した生活を送ろう！と子供たちに話しかけているつもりであります。

対古川高校との定期戦も、実施しました。双方で画像をやりとりした開閉会式では、エール交換も行い、無観客という、フルスペックの定期戦ではありませんでしたが、接戦の上、本校が総合優勝し、凱歌を響かせました。

高校総体では、陸上部が東北大会に駒を進め、水泳競技でも、4名が東北大会に出場します。女子ホッケー部は、インターハイ出場を決めました。

『良い学校は、良い地域にしか育たない』といわれます。校長である前に、地域住民である私にとって、2人の娘を育てていただいたこの学校を皆様と一緒に育てる気持ちを忘れず、日々を送りたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



ウィズ・コロナの東京で

築館高等学校同窓会東京支部

支部長 駒井隆治(第二十二回生)

今、私たちの日常を大きく変えてしまった新型コロナウイルス感染症の影響は、凄まじいものがあります。

東京支部は、東京都周辺に住む、千人以上の会員からなる組織です。首都圏に通勤通学する人達も多いです。

かく申す私も、渋谷に通勤しています。在宅勤務も、認められています。出勤しなければならぬ場合もあります。このような同窓生が相当数いるものと思います。

今回の史上、稀な災難においては、私達はどのように向き合うのか問われているように思います。このような災難に対してどのように対処すべきかということに知恵とエネルギーを注ぎたいものです。しばらくは「ウィズ・コロナ」で対応していく必要があります。

昨年は、「外出を避けましょう」と発信する一方で、「ソーシャルディスタンス」という政策が実行され

ました。このような矛盾したメッセージを発してはいけません。オピニオンリーダーが「人の命を守る」のか「経済を守る」のか、人々にはわからなくなっています。

東京支部の総会・懇親会は2年間で止まりました。百名もの会員の皆さんのあの「楽しそうな笑顔」が見られないことは実に残念です。

私どもは、コロナ禍のご真ん中の都会で活動しています。「ウィズ・コロナ」の方法を探って、活動を続ける必要があります。幸い会員の中には、医療関係者も含む多種多彩な人材がいます。その英知を集めて、東京支部の活動を続けてまいりたいと思っています。

【情報】

令和4年7月6日(土)

東京支部総会・懇親会を予定



2020東京オリンピックに思う

築館高等学校同窓会仙台支部

支部長 笠原 哲(第十八回生)

新型コロナウイルスの世界的蔓延で、東京大会が一年遅れ、賛否両論の中、やっと開催にこぎついた。私は、乗り越える課題は山積しているものの、日本での2回目開催に本当に素直に喜んでいきます。

初めて、日本で開催されたのは、第18回オリンピック、昭和三十九年(一九六四年)十月。私は築高2年、聖火リレーの伴奏者として、新装になった国道4号線築館の中心部を走りました。

このオリンピックでは、競技種目に初めて採用された柔道を始め、体操レスリング、東洋の魔女と云われた女子バレー等々のメダルラッシュに国中が歓び、沸いたのでした。

平和の祭典として、各国から参加した多くの競技選手の懸命な姿に感嘆と賛辞を送り、私自身初めて、世界に目を向けなければと、感慨を深めることとなりました。そして、新憲法のも

と、平和国家として歩んだことの正しさに自信を持ち、新たな価値観の創生と経済の発展、世界平和創出のために頑張らねばと、一人の若者として、初めて決意したことを思い出します。

さて、前回リオオリンピックで初めて、4カ国10人で結成された難民選手団は、祖国の内戦や紛争で、国を去った選手で構成されています。更に今回の東京大会では、11カ国29人と構成数が増加してしまいました。

開会式では、先頭のギリシャに続き五輪旗を掲げ、入場しました。平和を希求するオリンピック委員会の基本的方針、団の創設意義、言葉に絶する苦難を乗り越え、参加した一人一人の思いに心を寄せたいと思います。

最後に五輪参加者全員が最高のパフォーマンスを発揮できますように。



感謝



前校長 三浦孝洋（高三十一回卒）

私に与えられた4年間の任期を全う出来、次の方に任を引き継ぐことが出来たこと、誠に感慨深いものがあります。

教員としてスタートを切った37年前からこれまで、教え導いてくださった諸先輩方、立派に成長してくれた教え子たち、協力を惜しまず、支えてくださった保護者の皆様に心から感謝しております。

築館高校では、同僚の先生方はもちろん、渡邊同窓会長様はじめ、同窓会の皆様方、PTAの皆様方に労を惜しまず、ご協力いただけたこと、どれほど心強かったことが、感謝しても、感

謝しきれません。

特に同窓会東京支部の佐藤前会長様、駒井現会長様には、築館では感じられない中央の動向なども、お知らせいただき、御支援、御協力いただきました。改めて感謝申し上げます。

非力ではありましたが、築館高校の前進に少なからず、貢献できた、という自負を持って退任できたのも、多くの方々の支えがあったからです。

今後は、一同窓会員として、「築高サポーターズクラブ」の運営を通して、築館高校を応援し続けて、参ります。狩野新校長への変わらぬ御支援もよろしくお願い申し上げます。

陸上のインターハイチャンピオン、鵜澤飛羽君の動向を気になさっている方もいらっしゃると思いますので、私からも、お知らせします。

筑波大学に合格し、先の関東学生陸上競技選手権大会100mで、10秒30を記録、日本選手権出場の標準記録を突破しています。まだ体づくりの最中で、次のパリオリンピックやロサンゼルスオリンピックを目標にしているようです。彼の活躍に期待を持って見守っていききたいと思っています。

紫 燕 定期戦



毎年4月末に兄弟校である宮城県古川高等学校伝統行事の「古高定期戦」を北部地区総体（5月半ば）・県総体（6月初め）・東北総体（7月）・インターハイ（8月）の前哨戦として行なっている。この行事に向け、新入生は朝昼放課後の応援練習に励み校歌、他数曲の応援歌を覚え築高生の自覚と誇りを身につける。本校入学の登竜門であり最大イベントでもある。競技種目は13種目で行われ、勝ち越した方が総合優勝となる。競技以外にも両校生徒会長による舌戦や両校応援団による応援合戦なども見物である。ちなみに、応援団長は生徒会生徒の中から選ばれ、伝統のあるエールをきる。



応援団長 菅原大我

昨年、新型コロナウイルスの影響で、開催することができなかった定期戦。両校の選手、応援団共に大会に向けて、気持ちを高めてきただけに中止になった時は、無念の思いしかなかった。

しかしながら、たくさんの方々のおかげで、今年は、感染症対策に気をつけながら開催することができた。開会式・閉会式が動画での実施になったり、綱引きが中止になったりと、初めてのことも多く、戸惑う場面もあった。

だが、両校共に昨年戦えなかった、という悔しさと今年こそは戦える喜びとを胸に全力で戦った。

今年の結果は、七勝六敗で、我々築館高校が勝利した。練習試合もあまりできず、ぶっつけ本番のような状況の中で行われた部も多かった中、選手の皆は、本当によく頑張ってくれたと思う。

そして、その選手達を支えてくれた先生方や生徒の皆さんは、心から感謝申し上げます。このような素晴らしい年に、応援団長という大役を務めることができ、私も大変うれしく思う。

来年六十三回となる定期戦も、決して油断するまいとなく、この流れで勝利し、凱歌を高らかに響かせてくれることを期待している。

最後に、応援していただく同窓会の皆様、地域の方々に感謝を申し上げ、団長の挨拶とさせていただきます。



令和2年度の結果

令和3年度の結果

結果		築高	古高		引き分け
硬式野球	●	2	10	○	
サッカー	●	0	4	○	
バスケットボール (男子)	●	51	58	○	
バスケットボール (女子)		59	57	●	
バレーボール (男子)	●	0	2	○	
バレーボール (女子)	●	1	2	○	
卓球 (男子)	○	3	2	●	
卓球 (女子)	●	1	4	○	
剣道(男子)	●	0	4	○	1
剣道 (女子)	●	1	2	○	2
バドミントン (男子)		3	2	●	
バドミントン (女子)	●	1	4	○	

結果		築高	古高		
硬式野球	○	1	0	●	
サッカー	○	3	1	●	
バスケットボール (男子)	○	70	41	●	
バスケットボール (女子)	●	34	69	○	
バレーボール (男子)	●	1	2	○	
バレーボール (女子)	●	1	2	○	
卓球 (男子)	○	4	1	●	
卓球 (女子)	●	1	4	○	
剣道 (男子)	●	1	7	○	
バドミントン (男子)	○	4	1	●	
バドミントン (女子)	○	3	2	●	
ソフトテニス (男子)	●	2	3	○	
ソフトテニス (女子)	○	4	1	●	
総合	○	7	6	●	

※ 令和2年度：コロナ禍のため、通常通り開催することができず、古川高校との「練習試合」という形を取った。

※ 令和3年度：綱引き競技は、中止となった。



生徒会長 菅原祐樹

昨年、先輩方からバトンを引き継ぎ、頑張ろうと心に誓ったあの日から、1年が経とうとしています。生徒会長という大きな看板を背負い、よりよい築館高校を目指し、試行錯誤を重ねながら、活動させていただきました。

この一年間は、「コロナ禍」ということもあり、行動が制限され、窮屈さを日常的に感じる日々でした。しかしながら、感染症対策を講じればできることはきっとあると信じ、全校生徒で創意工夫を重ね、全力で行事成功を目指して、取り組むことができました。

伝統ある応援練習は、回数は、少なかったものの、その少ない機会を協力し合い、一、二年生に「臥薪嘗胆」の精神と応援の意義を教えることができました。

定期戦は、先輩方がこれまで積み上げてきた熱い思いを胸に最後まで諦めない、という気持ちを忘れずに接戦をものごとく、勝利することができました。一昨年の雪辱を晴らすことができたと思います。

とはいえ、全校生徒での「ボランティア部」は、コロナ禍のためにあまり活動できなかったのが心残りです。来年はもっと盛んに地域の人たちを手助けする力になってほしいという思いと、定期戦に連勝して欲しいという思いを持って後輩達に襷を渡したいと思っています。

令和元年度同窓会本部会計・総会決算

令和元年度 宮城県築館高等学校同窓会 会計決算書

1 収入総額	891,034 円
2 支出総額	635,734 円
3 残 額	255,300 円

1 収入の部

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較	備 考
			増 減	
1 会 費	303,900	300,348	3,552	1,100円 × 435名
2 繰越金	388,334	388,334	0	前年度より繰越
3 雑収入	7,804	2,300	5,504	過年度会費収入
合 計	699,038	690,982	8,056	

2 支出の部

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較	備 考
			増 減	
1 総務費	170,000	146,911	23,089	
(1) 事務費	30,000	36,922	16,922	印刷印刷・事務用品購入
(2) 通信費	30,000	9,937	20,063	役員会案内・資料集郵送料・印刷送料
(3) 旅費	110,000	100,132	9,868	本館赴き会参加旅費
2 会費	190,000	175,338	14,662	
(1) 役員会費	10,000	6,378	3,622	会費(役員会)
(2) 支店会費	60,000	65,000	-5,000	本館赴き会費(支店・各支)
(3) 大会会費	120,000	104,000	16,000	入会記念会費
3 学生支援費	200,000	198,415	1,585	活躍生徒への支援、進学決定祝い金
4 広報費	190,000	194,440	-4,440	会報印刷代
5 事業費	10,000	0	10,000	
6 雑費	2,000	0	2,000	
7 雑費	11,000	592	10,408	
(1) 優待費	10,000	592	9,408	会報
(2) 雑費	1,000	0	1,000	
8 予備費	182,000	0	182,000	
合 計	600,000	635,734	-35,734	

3 次年度繰越金

繰越収入額	繰越支出額	繰引額	繰戻
891,034	635,734	255,300	次年度繰越とする。

監 査 報 告 書

令和元年度宮城県築館高等学校同窓会会計について、令和2年4月13日に監査及び関係書類を査査した結果、正確に処理されていることを認めます。

令和2年4月13日

宮城県築館高等学校同窓会会長 菅原祐樹

監事 佐々木嘉郎 君
監事 千葉由美子 君

令和元年度 宮城県築館高等学校同窓会(総会) 会計決算書

1 収入総額	1,238,416 円
2 支出総額	826,523 円
3 残 額	411,893 円

1 収入の部

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較	備 考
			増 減	
1 会費	643,000	814,000	171,000	
(1) 前年度	600,000	795,000	195,000	3,000円 × 265人
(2) 当年度	43,000	21,000	24,000	3,000円 × 7人
2 繰越金	388,416	388,416	0	前年度繰越金
3 雑収入	64	64,000	63,936	ご祝儀
合 計	1,031,480	1,238,416	206,936	

2 支出の部

項 目	本年度 予算額	本年度 決算額	比 較	備 考
			増 減	
1 総会費	700,000	741,228	41,228	会費、懇話会費、講演者謝礼
2 通信運搬費	30,000	41,940	11,940	送料送料代
3 消耗品費	20,000	17,543	2,457	総会委員会関係お茶代等
4 印刷・広告費	35,000	25,832	9,168	ポスター・オファー印刷
5 予備費	200,000	0	200,000	
合 計	1,014,000	826,523	187,477	

3 次年度繰越金

繰越収入額	繰越支出額	繰引額	繰戻
1,238,416	826,523	411,893	次年度繰越とする。

監 査 報 告 書

令和元年度宮城県築館高等学校同窓会(総会)会計について、令和2年4月13日に通帳及び関係書類を査査した結果、いづれも正確に処理されていることを認めます。

令和2年4月13日

宮城県築館高等学校同窓会会長 菅原祐樹

監事 佐々木嘉郎 君
監事 千葉由美子 君

令和2年度同窓会本部会計決算

令和2年度 宮城県築高高等学校同窓会 会計決算書

1 収入総額	751,675 円
2 支出総額	348,496 円
3 繰越額	403,179 円

1 収入の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	備 考
1 会費	495,000	495,275	275	1,100円×450名、275円×1名
2 補助金	256,300	256,300	0	国中或より繰越
3 繰越金	4,700	1,100	3,600	過年度会費収入
合 計	756,000	751,675	4,325	

2 支出の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	備 考
1 雑費	170,000	30,889	139,111	
(1) 事務費	40,000	6,130	33,870	事務用品購入
(2) 通信費	20,000	19,768	232	印刷費、通信費、郵送料、事務用品
(3) 雑費	110,000	0	110,000	
2 会費	195,000	301,050	106,050	
(1) 役員会費	10,000	1,400	8,600	役員会費
(2) 支部会費	40,000	0	40,000	
(3) 入会式費	120,000	99,650	20,350	入会式記念品
3 生徒支援費	200,000	91,295	108,705	同窓生への支援、奨学金等
4 広報費	150,000	0	150,000	
5 事業費	10,000	424,618	414,618	高校入試対策講座等
6 雑費	2,000	0	2,000	
7 謝金	11,000	0	11,000	
(1) 謝金	10,000	0	10,000	
(2) 謝金	1,000	0	1,000	
8 予備費	17,000	0	17,000	
合 計	756,000	348,496	407,504	

3 次年度繰越金

繰越収入額	403,179 円	繰越支出額	0 円	繰引額	0 円	繰越金	403,179 円
-------	-----------	-------	-----	-----	-----	-----	-----------

令和2年度宮城県築高高等学校同窓会会計について、令和3年4月14日に開催及び別添資料を閲覧した結果、正確に処理されていることを認めます。

令和3年4月14日

宮城県築高高等学校同窓会 代表 佐々木 隆 監事 伊藤 美子

数年前の県庁同窓会 卒業生の華麗な舞



東京2020オリンピックと 築高同窓生



県庁
築高同窓会長
大山明美
(高二一回卒)

皆さんこんにちは。宮城県庁築高同窓会（県庁築高会）会長の大山です。

県庁築高会は例年2月に総会を開催し、同窓会本部役員や同窓会議員をはじめ、多くの御来賓やOBに参加いただき、盛大に開催していましたが、今年は、新型コロナ感染症の拡大の中で、中止せざるを得ませんでした。

本来であれば、総会の様子などを報告すべきところですが、そういう訳で今回は、私が今従事しているオリンピックに関しての同窓生の活躍びりを紹介させていただきます。

私は、担当次長から、現在のオリンピック・パラリンピック大会推進局長まで、通算6年目となります。

平成二十八年には、初当選の小池都知事が突然打ち上げた長沼（登米市）へのポート競技会場移転構想がありました。

その実現に向けて一緒に奔走したのが担当課長の千葉章くん（三十四回卒）でした。移転構想に反対する東京都の事務方や組織委員会等との困難な交渉に四苦八苦した思い出があります。

平成二十九年にはオリンピック・パラリンピック大会推進室が設置され、初代室長になったのが高橋清徳くん（三十二回卒）で、翌年には室から課となり、2代目が小野寺彰英くん（三十九回卒）です。この6年、築高同窓生コンビで、宮城県初のオリンピック競技開催と聖火リレーの実現に向けて奮闘してきました。

開催が1年延期されたオリンピックですが、六月十九日から3日間、東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸15市町を走る聖火リレーを無事に終えることができました。次は、いよいよ宮城スタジアムでのサッカー競技の開催です。コロナ感染の先行きが見通せず、開催には不安もありますが、本稿が掲載される頃には無事に終了していることを願っています。

そのサッカー競技観戦の観客誘導等を行う約千人のボランティアをまとめる役割を務めているのが佐藤信太郎くん（四十五回卒）です。間もなく終える宮城県初のオリンピック開催ですが、私は今思っています。「宮城のオリンピックを支えたのは築高同窓生である」と。そして、来年の県庁築高会では築高凱歌を声高らかに唱和したいと思っています。